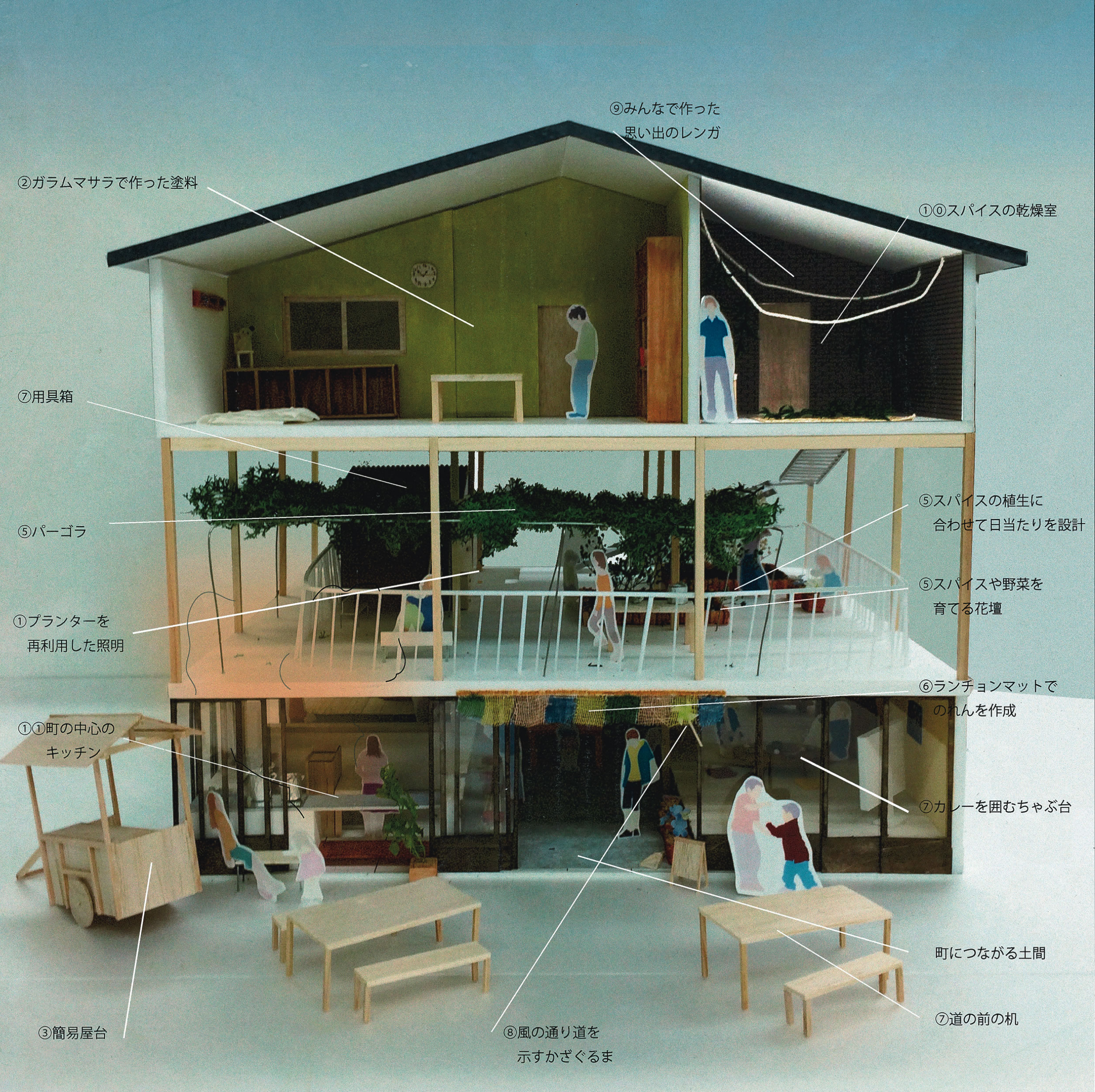




町をはぐくむカレー屋さん

□ Concept

この町には、昔から地域の人に愛されている**カレー屋さん**がある。しかし、このカレー屋さんの店主はちょうど1年後に店をたたんで田舎に帰ることを決めている。

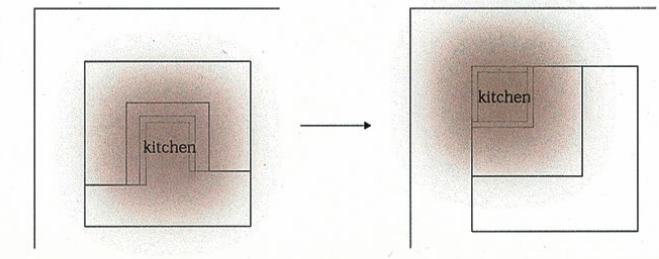
町にとって**“第二の家”**として長年あり続けてきた街角のカレー屋さんがなくなってしまうことは、町の**アイデンティティー**を一つ失うことである。おじいちゃんが田舎に帰った後もこのカレー屋さんが**“第二の家”**であるために、おじいちゃんがなくなったカレー屋はどのように第二の家になっていくのだろうか？

そこで、店をたたむまでの間に地域の人々を巻き込んだ**“この場所に酸素を送り込む11回のWS”**を企画する。

おじいちゃんはいなくなったけど、昔と同じ**匂い**、**賑わい**が町に漂う場所をみんなで考えていく。

カレー屋と地域、そして建築家、それぞれの関係性を織り交ぜていくことで、この町に**新しい関係性**を生みながら、場所を作り、**育んでいく**。

□ Diagram2 - 町の中心になるキッチン -

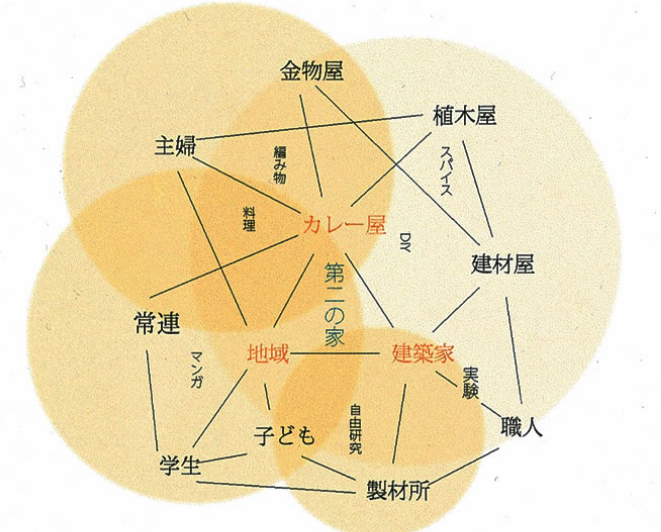


□ Site

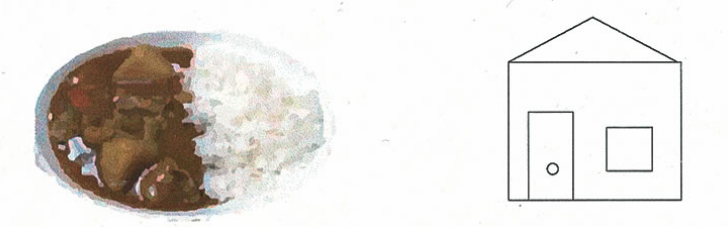
対象敷地は、商店街から一本通りに入った奥にある角地である。この町は開発が進む一方、昔からある商店が立ち並んでいる。昔から住んでいる人が多い一方で、若い人の入れ替わりも激しい。

□ Diagram1 - カレー屋 × 地域 × 建築家 -

現状のそれぞれが持っている関係性同士を、要素をごとに分けていくと、今までの関係性を超えて、多種多様なネットワークが新しく出来上がり、町に新しい関係性を生み出す。



□ Diagram3 - カレーライスからケンチクを考える -



この場所のあり方を見つめ直し、町に開いていくために、カレーを作るプロセスからWSを企画し実験的に建築の姿を探していく。

- 5月 スパイスの苗植え
- 6月 あみもの
- 7月 木工体験
- 8月 かざぐるま作り
- 9月 レンガ作り
- 10月 スパイスの乾燥
- 11月 暖炉作り
- 12月 カレー作り
- 1月 照明作り
- 2月 スパイスで実験
- 3月 屋台作り

クミンやターメリックなど、カレーの原料となるスパイスのそれぞれの植生を観察する。

地域のお母さんたちを中心に、お気に入りのランチョンマットを編む。

町の製材所の協力を得て、みんなでカレーを囲む食事台などを作る。

この建物周辺の風の通り道を見つける。

材料から建築を考える。

5月に苗植えたスパイスを収穫し、乾燥させる。

9月に作ったレンガを使って簡単な暖炉作りをする。

WSで作ったスパイスや食事台を使って地域の忘年会をする。

モノを再利用することを考える。

栽培したスパイスを土やモルタルに混ぜて、これから建つ建物の素材の実験をする。

来月から本格的に始まる工事の間も、カレーが食べられる。